

## アノスミア わたしが嗅覚を失ってからとり戻すまでの物語

モリー・バーンバウム[著] ニキ リンコ[訳]

主人公の女性・モリーはシェフ見習い。レストランでの仕事を懸命にこなし、一流シェフを目指して修行しています。しかし、交通事故に会い、嗅覚を失ってしまいます。「におい」を失った彼女は、シェフへの夢が断たれ、打ちのめされますが、なんとか嗅覚を取り戻す方法は無いかと、いろいろな資料を調べ、最新の知見を得るため、多くの専門家に意見を求めます。タイトルのアノスミアとは、嗅覚喪失症のことです。

「におい」は、私たちにとって、とても身近で、無くてはならないものですが、「におい」が脳で感知され、何のにおいかぎが識別される仕組みは、長い間、謎のままでした。この嗅覚の謎は、コロンビア大学のRichard Axel博士と、フレッド・ハッチントンがん研究所のLinda Buck博士が1991年に米国セル誌に投稿した論文(参考文献1)により、解明に向けて大きく前進することとなります。彼らの「嗅覚受容体遺伝子の発見」には、後の2004年度に、ノーベル医学生理学賞が贈られています。

アノスミアが起きた場合、その原因が嗅覚受容体(鼻腔の奥にあり、におい物質と結合して信号を出す)にあるのか、嗅覚神経(鼻腔から脳につながり信号を伝える)にあるのか、あるいは脳(信号を感知し、識別する)にあるのかで、再び「におい」を取り戻すことができる可能性が大きく変わってくるようです。主人公モリーの場合は、嗅覚神経の損傷が原因だったようで、再び「におい」を取り戻すことができます。嗅覚神経は、神経細胞の中で唯一再生能力を持っているからです。本書では、嗅覚についてこれまでにわかったこと、まだ解明されていないことを学ぶことができ、また、文章からにおいを感じられるという、不思議な感覚を味わうことができる、おすすめの一冊です。

### 参考文献

- 1) Buck, L. and Axel, R.: A Novel Multigene Family May Encode Odorant Receptors: A Molecular Basis for Odor Recognition (1991) Cell 65, 175-187

(東京都健康安全研究センター 薬事環境科学部 環境衛生研究科 斎藤育江)

### 目次

- 1 鴨の脂とアップルパイ
  - 2 サワーミルクと紅茶
  - 3 ローズマリーとマドレーヌ
  - 4 焼きたてベーグルと彼氏のシャツ
  - 5 シナモンガムと硫黄
  - 6 ピンクレモネードとウイスキー
  - 7 キーライムとラベンダー
  - 8 オポポナックスとヒマラヤ杉
- エピローグ

